

地独) 北海道立総合研究機構 平成29年度 新規重点研究課題の評価結果一覧

研究課題名	研究本部	研究期間	研究評価委員会における評価			総合評価		
			評価項目			意見	評価	意見
			緊急性	計画	活用性			
①保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立	農業	H29-31	b	b	b	生産者の所得増につながる技術であるが、経済性の検討を十分に行う必要がある。より成果を高めるために、普及員、農家の後継者などを含めた参加型の技術開発にするべき。	B	生産者の所得増につながる技術であるが、経済性の検討を十分に行う必要がある。より成果を高めるために、普及員、農家の後継者などを含めた参加型の技術開発にすること。
②道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立	農業	H29-31	b	b	b	メロンの高付加価値化において必要な技術。貯蔵・輸送条件の最適化を図るために、実験を系統的に進めるとともに、経済性についても検討を行うべき。	B	メロンの高付加価値化において必要な技術。貯蔵・輸送条件の最適化を図るために、実験を系統的に進めるとともに、経済性についても検討を行うこと。
③牛白血病ウイルス清浄化を目指したウイルス伝播防止技術体系の構築	農業	H29-31	a	b	b	緊急性は高いが、各種リスク管理方策をどのように組み合わせ検討していくか不明である。農家・地域ごとの状況に応じた処方箋策定につながるよう検討を進めるべき。	B	緊急性は高いが、各種リスク管理方策をどのように組み合わせ検討していくか不明である。農家・地域ごとの状況に応じた処方箋策定につながるよう検討を進めること。
④道東サケの漁獲回復を実現する「天然潟湖」を活用した新たなサケ放流体系の確立	水産	H29-32	b	b	b	放流時期、放流サイズ、放流数についての最適化ができる計画とするべき。潟湖生態系への環境影響の評価とともに、経済性の評価を行うべき。	B	放流時期、放流サイズ、放流数についての最適化ができる計画とすること。潟湖生態系への環境影響の評価とともに、経済性の評価を行うこと。
⑤カラマツヤツバキクイムシ被害拡大抑制技術の開発	森林	H29-31	a	b	b	単なる調査研究にとどめず、被害調査をどのように対策に結びつけていくか、対策（被害木の除去）の費用対効果、経済性を考慮して、被害拡大抑制技術を検討するべき。	B	単なる調査研究にとどめず、被害調査をどのように対策に結びつけていくか、対策（被害木の除去）の費用対効果、経済性を考慮して、被害拡大抑制技術を検討すること。

地独) 北海道立総合研究機構 平成29年度 新規重点研究課題の評価結果一覧

研究課題名	研究本部	研究期間	研究評価委員会における評価				総合評価	
			評価項目			意見	評価	意見
			緊急性	計画	活用性			
⑥道産広葉樹を原料とした粗飼料の開発	森林	H29-31	b	b	b	給餌とその効果についての検討を十分に行い、コストや採算性を示す必要がある。また、畜産農家との連携を深めるとともに、マーケットでの優位性を示すべき。	B	給餌とその効果についての検討を十分に行い、コストや採算性を示す必要がある。また、畜産農家との連携を深めるとともに、マーケットでの優位性を示すこと。
⑦大規模営農における効率的な農作業計画の作成および実施を支援するITシステムの開発	産業技術	H29-31	b	c	c	担い手不足地域で増加している農業法人の運営支援は重要であるが、既往の知見に関する調査が不足している。民間開発のシステムを凌ぐ成果が出てくる可能性が低い。	C	担い手不足地域で増加している農業法人の運営支援は重要であるが、既往の知見に関する調査が不足している。民間開発のシステムを凌ぐ成果が出てくる可能性が低い。
⑧大型産業機械部品のメンテナンスに向けた環境調和型洗浄技術の開発	産業技術	H29-31	a	b	b	労働力不足の下、メンテナンス作業の省力化、環境負荷軽減は重要と判断。温度、圧力、混合する媒体など多くの条件を系統的に実験評価すべき。	A	労働力不足の下、メンテナンス作業の省力化、環境負荷軽減は重要と判断。温度、圧力、混合する媒体など多くの条件を系統的に実験評価すること。
⑨高品質道産そば粉の生産技術の開発	産業技術	H29-31	c	b	b	ニーズが見えにくく、北海道産そばのごく一部に対する研究であり、実質的な効果の大きさと道内企業への広がりが見えない。ブランド化しないと販売拡大は難しい。	C	ニーズが見えにくく、北海道産そばのごく一部に対する研究であり、実質的な効果の大きさと道内企業への広がりが見えない。ブランド化しないと販売拡大は難しい。
⑩独自分離乳酸菌を活用した香り調整技術に基づく乳製品製造技術の開発	産業技術	H29-31	b	c	b	香り乳酸菌の最適生育条件とチーズやバターのお最適製造条件が異なっていることが予想されるが、香り乳酸菌の発酵条件の検討が不十分。また、ブランド化の具体的なイメージが希薄。	C	香り乳酸菌の最適生育条件とチーズやバターのお最適製造条件が異なっていることが予想されるが、香り乳酸菌の発酵条件の検討が不十分。また、ブランド化の具体的なイメージが希薄。

地独) 北海道立総合研究機構 平成29年度 新規重点研究課題の評価結果一覧

研究課題名	研究本部	研究期間	研究評価委員会における評価			総合評価		
			評価項目			意見	評価	意見
			緊急性	計画	活用性			
⑫ニセコ地域における地熱構造モデル構築と地熱資源量評価	環境・地質	H29-31	b	b	b	地元自治体や開発事業者の意思決定に反映できるよう、地熱モデルの利用方法を明確にし、目的と精度とのバランスを適切にするべき。また、計画全体を有機的に結合させて研究を進めるべき。	B	地元自治体や開発事業者の意思決定に反映できるよう、地熱モデルの利用方法を明確にし、目的と精度とのバランスを適切にすること。また、計画全体を有機的に結合させて研究を進めること。
⑬道産資材を用いた木造高断熱外壁の防耐火構造の開発	建築	H29-31	b	b	b	研究の開発要素を明確にするべき。大臣認定を受ける団体との連携を進めて認定の取得に確実に結びつけるとともに、道内企業への普及を進めるべき。	B	研究の開発要素を明確にすること。大臣認定を受ける団体との連携を進めて認定の取得に確実に結びつけるとともに、道内企業への普及を進めること。
⑭津波による最大リスク評価手法の開発と防災対策の実証的展開	建築	H29-31	b	b	b	リスク評価における不確実性の評価を明確にし、モデルの利用の妥当性を評価するべき。また、対策案の提示にとどめず、市町村と連携を図り、実際の防災組織や避難訓練につなげるべき。	B	リスク評価における不確実性の評価を明確にし、モデルの利用の妥当性を評価すること。また、対策案の提示にとどめず、市町村と連携を図り、実際の防災組織や避難訓練につなげること。
⑮積雪寒冷期の大規模地震に対応した地震リスク評価手法の開発	建築	H29-31	b	b	c	評価手法の開発にとどまっており、どうすれば対応可能かという住民への支援の視点が欠如している。また、倒壊予測に目的が限定されており、減災の視点での多面的な調査が含まれていない。	C	評価手法の開発にとどまっており、どうすれば対応可能かという住民への支援の視点が欠如している。また、倒壊予測に目的が限定されており、減災の視点での多面的な調査が含まれていない。

注) 研究評価委員会における評価項目

【緊急性：緊急性・必要性、 計画：計画の妥当性、 活用性：成果の活用の可能性】

⑪については非公表